

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)



1 平成2年9月12日（水曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
7番 生稲 陞	8番 鈴木 勝美
9番 山口 康雄	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
14番 小宮 利夫	15番 横溝 功
16番 石井 昌治	17番 石井 謀
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
20番 福原 勲	21番 辻田 実
22番 黒川 平治	23番 流山源次郎
25番 渡辺 昭夫	26番 近藤 好雄
27番 林 豊	28番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

13番 山中金治郎

1 出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 安西 良一	水 道 課 長 鈴木 信一
教 育 委 員 会 長 正木 高剛	教 育 委 員 会 長 福原 修
選 挙 管 理 委 員 会 長 加藤 利	選 挙 管 理 委 員 会 長 庄司 徹
教 委 員 長	教 育 委 員 会 長
選 委 員 長	事 務 局 書 記 長

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄	事 務 局 長 補 佐 兵藤 恭一
---------------	-------------------

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

# 1 議事日程（第2号）

平成2年9月12日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数26名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

## 行政一般通告質問

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月6日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

23番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（23番議員流山源次郎君登壇）

◎23番（流山源次郎君） おはようございます。

一昨日半澤市長が退任のあいさつをこの席で行いまして、非常にすばらしい内容と格調あるあいさつに對しまして、私ども席におりまして非常に胸の熱くなる思いでございました。前本間市長のときには体のハンディ等がございまして、半澤市長と違ひましての退任でございましたが、まだ余力を残し

ながら、半澤市長におかれましては、自分が手がけた仕事のこれから花開き、実を結ぶ時期を待たずして後進に道を譲ったということに対しまして、非常に感無量なものがあるということを私は心から痛感するものでございます。半澤市長の16年間の長きにわたりましての御苦勞に心から感謝を申し上げる次第でございます。御苦勞さまでございました。

ちょうど私の通告質問が — 縁は異なるものと申しますが、半澤市政の16年を顧みてということで提案いたしましたものでございますが、何かここに重なってしまって、ちょっと私としても何か変な気持ちでございますが、一応議員の立場といたしまして、通告いたしましたことにつきまして、ここで自分の与えられた時間内におきまして自分の持ち分を消化していきたいと思っております。

一昨日の半澤市長さんのお話の中にもありましたとおり、市長就任当時は銀行から — 館山市の財政の非常に不足している現状に対して銀行自体が融資を渋るというふうな状態であったというお話がございましたが、まさにそのとおり、非常に苦しい財源から出発したわけでございます。そこにつきましては、我々当時の議員といたしましても十分にわかるほどわかっておったと思いますが、この当時の財源不足、財政困難というのは神武景気、岩戸景気の国の流れの低下によるものかどうか、また前任者が非常に福祉行政、先取り行政を行った結果によるところの財源不足であるかどうか、この点につきましてお聞かせ願いたいと思っております。

小さな2点といたしまして、当時非常に財源不足ということで、半澤市政になりましてから幼稚園の使用料、またごみの手数料等、前市政におきましては無料であったものが有料化されてしまったという経路がございますが、これに対しまして館山市民、日本全国の市民というのは、酷税はトラより猛しということわざのあるとおり、税金を上げるとか高くするということはあらゆる面で非常に大きな抵抗があるということを承知しております。また、現在の自民党政権が数度の選挙におきまして非常にこの消費税という税の問題に絡んで不利な立場に立たせられて、非常に困難な状況を呈しておるということは、市民が税金を値上げするということに対する非常に大きな反感の

あらわれであるということを承知しておりますが、館山市民におきましては、今日の毎年3億前後の黒字決算を見るという館山市財政の立て直しになるまで、市民はじっと我慢をして市に全面的に協力してまいったわけでございます。その点を顧みまして、私はこの現在の館山市の年間におけるところの3億前後の黒字決算を見るという状態においては、この苦しいときに全面的に市に協力してくれた市民に対して、ごみの収集費または幼稚園の使用料等は免除すべきではないかと思うのでございますが、この点につきましていかがお考えであるかお聞かせ願いたいと思っております。

第3点といたしましては、館山市の国民健康保険税が特に他の市に比べて高いという話が我々としても伝わってくるわけでございますが、この点につきましていかがなものかお聞かせ願いたいと思っております。

第2といたしまして、水産行政についてをお伺いいたします。農業、漁業の1次産業におきまして、水産業に対するところの漁業権に関する法律というのはどういうものがあるかどうかお聞かせ願いたいと思います。

次に、戦後における館山湾内開発整備と海の復元について市としての取り組みを問う。これは、あの大東亜戦争が終結いたしました直後に、現在あの自衛隊のスロープの下から船形漁協見通しのこの結ぶ線の間は、飛行機が恐らく5機以上の墜落したものの残骸があ海底に埋まっておったのではないかとされる地帯でございます。それからいま一点は、現在の北条三軒町の沖合でございますが、大きな軍の標的がございまして、そこに――ハワイ真珠湾の奇襲攻撃用ではないかと思うのでございますが、艦載機が毎日のようにそこへ目がけて急降下爆撃をして、火薬の入っていないような爆弾を投下して毎日毎日そこに練習をしておった。その残骸等がやはり海の中に埋もってしまって、それが頭が海の中に入ってしりが砂の上に出ておるというふうな関係で、そこに戦後館山で操業するあぐりがその箇所投網して、魚が入ったなと喜んでおると、上げてくるともうその残骸によって網が切られてしまって魚が一匹も残らぬという非常にアクシデントがあったわけでございます。この点につきまして、私の記憶している限りにおきましては、国、県、市が漁業家に対する救援措置をとってくれたということは記憶にございませ

ん。ただ、この点におきまして、自分たちの海は自分たちで守らにゃいかぬということから、操業の終わった時点、また操業の合間にこの残骸の取り払い、海の清掃、復元するということに対しまして、非常に血のにじむような努力を漁民自体が行ったわけでございます。現在館山観光の一つといたしまして地びき網等が相当名前が知れ渡っておりますが、この地びき網自体も当時のそのままであったら恐らく不可能じゃないか、そういう地びき網事業はできないじゃないかというほどの非常に恐ろしい海底の状態であったわけでございます。

それから、第2点といたしまして、館山におけるところの海草、特にカジメでございますが、これは戦後館山にもほとんど岩場という岩場、また海底面におきましても物すごく繁殖をしておったわけでございますが、これも漁協の知らない間にある大会社がヨードを取るという名目でほとんど刈り尽くしてしまったわけでございます。御承知のとおり、サザエ等はこのカジメを食べて成長するというようなことは現在でもはっきりしておりますが、そういうものを取られてしまったということで、小さな例でございますが、船形の沖合に——地元の人は方言としてサザエ根と言っておりますが——サザエが生息しておったという根がございますが、そこにはほとんどもうサザエが壊滅してしまったというような状態、また館山湾には戦後非常にイワシを初め回遊魚が相当の量が回遊してきたわけでございますが、その海草——カジメの撤収後には目に見えて魚の入ってくるのが少なくなったという非常に現実的な問題がございます。

それから、私ども漁業関係の者が非常に苦しんだことは、戦後農業、漁業が国の統制によりまして、とった魚は統制価格によりまして安定して、我々は魚さえとってくれば物すごくいい金になったというような状態が続いたわけでございますが、その途中におきましてこの漁業の面において、漁業だけは——農業は現在でも自由化どうのこうのと言って統制が続けられて保護されておりますが、漁業の場合は途中でもう打ち切られてしまった。その時点におきまして大漁貧乏、豊漁貧乏が続いてしまったということでございます。この点につきまして、その当時の統制撤廃されて、もう我々としては魚が物

すごい安い、とればとるほどたたかれてしまって、早い例が40キロ——大体10貫目の容器に入ったアジが仕切り相場が100円とか、わずかそんなもので、結局何か値段が少ないから魚をとらにゃいかぬということの悪循環によって、とればとるほど貧乏が続けたという状態に追い込まれてしまったわけでございます。そのときに県のある役人の方が、これから国が第2次産業等によって日本が立ち直るには工業に力を入れなきゃいかぬ。そこに対する労働力が必要だということで、そのために漁師の統制を撤廃したんであるということと言ったとき、我々は何言っているんだ、ふざけたことを言うなということで笑っておったんですが、現実を考えますと、もう魚はとれぬ、とれた魚は安くたたかれるということで、漁民が自分の生活は成り立たないということで、若い労働力が都会へ都会へと流れていって、現在見るとおり漁民の減少というものになった場合に、なるほどあれはある程度現実ではないかなという思いをめぐらすわけでございます。

そういうわけで、我々といたしましては、残された館山を中心としてのわずかな海でございますが、現在は飛行機の残骸とかそういうものはございませんが、市といたしましてはこの海を守る、海を復元してくれるということは、今残されたものは公害、海が汚くならない——この公害よりほかにないと思いますが、この点につきまして市の考えをお聞かせ願いたいと思うのでございます。

それで、現在市で言う養殖漁業——育てる漁業というのは現況はどのようになっているか、それから将来市が育てる漁業の将来性についての考え、そういうものをお聞かせ願いたいと思っております。

これからの市行政のあり方についてをお伺いいたします。市の主体性ある強力な指導力で市民との話し合いの回数を増加し、困難事業の完遂についてをお聞かせ願いたいと思っています。これは2点の例を挙げますと、1点は館山駅東口の再開発の問題と、それから館野、九重におきますところの簡易水道の件でございますが、この2点を見ても、私どもといたしましては市の執行部とこの問題等は取り組んでまいりますし、また地元から出ておる議員さんの方も、館野と九重の水道問題はこうまで反対があったらしょうがない



だろうということで矛を納めたこととありますが、ところがたまたま次の市長有力候補になった方がこの問題を取り上げまして、館野、九重におけるところの水道のものを一番根拠にして立ち上がってきたということを見ても、また館山市の東口の商店街の再編成、再開発等につきましては、組合ができておりますし、そのことに皆さん一生懸命にそれぞれの困難な問題に取り組んでいるという姿をまた見たり聞いたりしておりますが、その反面におきましては、我々の第三者の目から見ると、いつになったらこれは実現するんだろうという非常に何か危惧が感じられるわけでございます。たまたま議会におきましてこの問題を取り上げまして、先進地にそれで視察に参りまして、その再開発を成功したところでは、話を聞きますと、市自体が積極的に先頭に立って非常に困難な話し合いをして、その結果によってこういう成果を得たという商店街の再編成、また今こうして再燃してまいりました九重、館野地区の水道問題も、こういう問題が再燃してくるということは、もっとあの時点で、もうこれでぎりぎりだというけれども、もう少し話し合いを続けたならばこの問題が解決したのではないかというような思いもするわけでございますが、この辺につきまして、市としてはこの困難な問題をもっと強力な指導力によって解決をしていただきたいということでございますが、それに対するお考えをお聞かせ願いたいと思っております。

それから、館山市活性化のため、国、県に対する行動の強化に努める考え方についてお聞かせいただきたいと思います。これは当然国、県に対しましての予算の獲得なり、またそれぞれのいろいろな市がかかわる問題につきましての大きな国、県の力を動かすということで、この問題につきまして市長等は安房郡の広域市町村の先頭に立って、鉄道の複線化、またそれぞれのリゾート開発の問題等におきましての国道 127号バイパスとか、また東関東自動車道等の問題で先頭になって非常に骨を折っておられることは十分わかります。しかしながら、我々といたしましてもあらゆる面から第三者から聞きますと、やはり館山市は頭がもっと動くべきでないかという声が非常に多くあるわけでございまして、この点につきましての市のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

以上、そういったことでございます。あとはバイパス等に通ずる支線及び関連道路の整備推進を図るべきではないか、市内建設業者育成保護のためにどのような考えを持っているか等につきましてお聞かせ願いたいと思っています。

私はこれにおいてこの演壇におきますところのあいさつは終わりますが、あえて私は市に対する集中攻撃とか、個人的に揚げ足をとるとかという問題ではございませんが、せっかくの与えられた自分の時間を — 自分の席に戻りましてから30分十分に今後の館山市の再建のために質問を続けていきたいと思っています。よろしくお願いします。

◎議長（渡辺昭夫君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 流山議員の御質問にお答えをいたします。

まず、大きな第1点でございますが、市長就任時の財源を顧みてということでございますが、私が市長に就任いたしました昭和49年度の決算におきまして財源不足が生じた原因につきましては、直接的には当初予算に計上されておりました中学校跡地を売却しなかったことによるものでございまして、この跡地はその後市民運動場として多くの市民の皆様に御利用いただいていることは御承知のとおりでございます。

当時の状況を振り返ってみますと、昭和49年度決算においては財政健全化のバロメーターである経常収支比率は県内都市の平均を20%近くも高い94.4%でございました。当時の経済状況もございますが、特に人件費、扶助費、公債費等の義務的経費の構成比が高く、人件費が市税収入を上回っているなど本市の財政は著しく硬直化したものとなっており、社会情勢の変化に対応できない財政構造になっていたことも財源不足となった大きな原因だったものと考えております。

このような中で財政の健全化に取り組み、まず人件費において期末手当の減額、一般職の昇給延伸、特別職のベースアップの見送り、課の統廃合、希望退職を募るとともに欠員の不補充等、公債費において良質な資金の借り入れと過去の高率な借入金の繰り上げ償還、また物件費において旅費や食糧費

の制限など、経常経費の徹底した節減等組織、事務事業全般にわたって見直しを進め、行政改革、財政改革を断行するとともに、施策の展開に当たっては優先順位の厳しい選択の中で計画的に行い、財政の弾力化、健全化を図ってきたところでございます。

次に、幼稚園使用料及びごみ収集手数料についての御質問でございますが、市民の負担の公平を図るという見地から、受益者負担をお願いすることが適切なものであると考えております。

次に、小さな第3点、国民健康保険税が特に館山市が高いと言われるのはなぜかという御質問でございますが、御承知のとおり国民健康保険税の算定は医療費の状況によって決められるところでございます。昭和63年度の実績で館山市の1人当たりの医療費を申し上げますと、千葉県下28市の平均10万4,991円に對しまして11万9,232円になっております。このように医療費が高くなっている原因でございますが、大きくは高齢者比率が高いという本市の年齢構成がございまして、高齢者が多くなればなるほど医療費が高くなる実情を元年度1年間の例で申し上げますと、10歳代で1人当たり平均医療費が3万7,940円であるのに対して、50歳代では17万7,370円、60歳以上では5倍強の20万659円となっております。ちなみに、昨年9月末現在での国保被保険者65歳以上の構成比率は県平均19.83%に對し本市は27.76%となっております。このように、高齢者を多く抱える本市は他市に比べ医療費がかさみ、国保税に大きく影響しているところでございます。

次に、大きな第2点、水産行政についてでございますが、まず御質問の漁業権についてでございますが、御承知のとおり解釈が広範囲で、かつ多岐にわたっていることから、一概に申し上げることは困難でございます。大綱といたしまして、行政庁の免許により一定水面において一定の漁業を営む権利とし、漁業法第6条で定義づけられております定置漁業権、これは漁具を定置して営む漁業であり、次に区画漁業権、これは一定区域内で営む養殖漁業、さらに共同漁業権、これは一定水面を共同で利用して営む漁業で、この3種類が大綱的に定義づけられております。

2番目の戦後における館山湾内開発整備と海の復元についての問題でござ

います。まず、市の海の浄化対策についての御質問の趣旨と受け取りましたが、館山湾の浄化につきましては公共下水道の整備が最も有効な手段であります。しかしながら、公共下水道の整備につきましてはかなりの期間を要しますので、市民の浄化に対する意識の高揚を図るため、家庭でできる浄化対策として、モデル地区を定めて三角コーナー、水切りごみ袋の試供品の配布や、河川の直接浄化といたしまして人工芝、礫間浄化施設、都市排水路浄化施設を建設してまいりました。また、家庭用小型合併処理浄化槽の設置に対し補助制度を導入するとともに、三軒町生活排水処理施設の建設により汚濁負荷の軽減を図ってまいりました。さらに、現在6主要排水路について実施しております現況調査の結果を踏まえ、浄化施設の検討を進めてまいります。

次に、小さな3点、育てる漁業の現況と未来についてという御質問でございますが、水産資源の維持と増殖を図るため、クルマエビ、マダイ、ヒラメ、アワビ、チョウセンハマグリ等各種種苗放流を昭和45年度から年次的計画に基づいて実施しているところでございます。また、沿岸漁場整備開発の一環といたしまして、天然礁を補完、拡充するため、コンクリートブロックによる魚礁及び自然石を投入する築いそ事業を計画的に実施しているところでございます。今後魚介類の増殖場の整備を図ることにより生産の拡大が期待できますし、平成3年4月開設予定の東京湾栽培漁業センターを活用し、そこで生産される魚介類の種苗を求め、積極的な放流事業を実施したいと考えております。

次に、大きな第3点、これからの市行政のあり方について。まず、小さな第1点でございますが、南房総地域が半島性から脱却する転換期を迎える中で、本市は将来都市像である「活力ある文化福祉都市」の実現を目指して、地域振興の柱と掲げた海洋性リゾートタウンの建設を積極的に推進しているところでございます。この建設を進めるに当たっては、行政のリーダーシップと相まって、市民と行政がそれぞれ責任を分担し、協同するまちづくりが最も大切な要素であるとの基本的な認識のもとで、これまで鋭意市民の理解と合意形成に努めながら、道路交通網、館山駅周辺市街地、上下水道等の都市基盤整備を重点としたさまざまな施策を実施してまいりました。今後とも

このような観点に立ち、市民と一体となった行政の運営に全力を傾けて取り組んでまいり所存でございます。

次に、小さな第2点、館山市活性化のため、国、県に対する行動の強化に努める考え方について問うという御質問でございますが、東関東自動車道館山線の建設促進を初めとする重要な行政課題につきましては、これまでも国、県等に対し随時陳情等を行ってまいりましたが、今後も機会をとらえまして各事業の早期実現に向けて積極的な要望活動を進めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点、バイパスに通ずる支線及び関連道路の整備推進を図るべきではないかという御質問でございますが、国道127号館山バイパスは来年3月の完成を目途に現在工事を進めているところでございますが、この道路の支線及び関連道路の整備に当たりましては、車両交通の増大、通学児童等の安全性の確保を考慮して現在検討しております。今後整備をするに当たりましては、バイパスの支線から実施し、次にその支線に関連する道路の中から優先度の高い路線につきまして整備してまいりたいと考えております。

御指摘の川名岡地区を通る市道3069号線につきましては、交通量調査を実施した上で結論を出したいと考えております。なお、市道3069号線に関連する根岸地区を通る市道3054号線の道路改良につきましては、将来の課題として取り組んでまいり所存でございます。

次に、小さな第4点、市の活性化のために地元の業者を優先させるべきではないかという御質問でございますが、建設工事の発注につきましては、地元経済の活性化、市内業者の育成を図るため、極力地元建設業者を優先的に指名して受注機会の確保に努めているところでございますが、特殊工事または極めて高度な技術を要する工事についてのみ地元以外の業者を選定しているところでございます。

一方、育成保護につきましては、発注主管課におきまして早期発注に努めるとともに、今年度当市におきましては、市内建設業者に対し工事の安全管理と施工技術の向上を図るための研修会を実施したところでございます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 流山君。

◎23番（流山源次郎君） 私の質問に対しまして、懇切丁寧な御回答をいただきましてありがとうございます。

今、市長さんの方からお話でしたが、私壇上でお願いしたことは、幼稚園の使用料、ごみ収集料の有料化に対するもので、現在の状況ではこれを無料化にできないかということでございましたが、市長さんの答弁におきましては、受益者負担ということ十分わかります。今せっかく苦労して取りました税金とか、そういうものを解消して、また新しい何かことが起こった場合に税金をまたつくるということは非常に困難なことを考えますれば、市長さんとして受益者負担ということで御回答されたわけでございますが、この点につきまして、市長さんが市長に当選されたその前の1期、前本間市政から我々議員といたしまして参加しておるわけでございますが、その本間市政におきまして非常に財源の苦しいということは、本間市政の最後の年にはもうそれが出ておりまして、それでそのために前市長は財源の不足を補うべく館山一中の跡地を売却して、それを——我々予算書に目を通し、また市の説明等におきまして、約3億の予算をそこに計上するという事までうたわれておったわけでございます。

ところが、新しい半澤市政になりましてからこの一中跡地の売却して計上する3億というものが消えてしまって、結局そのために苦しい財源の中から——またこの3億というもの、当時としては非常に大きな財源を、これを捨ててしまっておったということ。それに対して市民に対して、今お話したとおり幼稚園の使用料、またごみ収集料等を徴収して市民に苦しいからということで協力を求めたということを顧みますと、この3億の館山一中跡地の売却の問題が出まして、これは結局現在となってみると、あれを売ってしまったらもうどうにもならなかった。現在になってまいりますと、館山の一中の跡地ということは、現在、市民が非常に楽しむ運動場、レクリエーションの場所になっておりますし、またこれから館山の公共下水道が、そこに工事計画始まれば、非常に重要なものとして、館山として非常に光輝くものが残ったという結果を見ますと、災い転じて福となるということでございますが、

ただ我々市民として、そういう3億の予算も削り、そして苦しい苦しい中で市民に求めた。市民は黙って反旗も翻さず、黙って市の政策に従ってこういうものを協力してきたということを考えた場合に、私としてはせめてそういう時期にできた幼稚園の有料化、またごみの手数料等をこの2点だけでもせめて市民に対する件で何か解除できないかということで質問したわけですが、市長さんの答弁のとおり、市を執行する方におきましては入ってくるものは——なかなか次につくろうということの困難性を考えた場合にはこれも仕方のないことでございますので、一応この点にとどめておきます。

戦後における館山湾等の開発でございますが、お聞きいたしますが、現在船形漁港は国の第3種漁港に指定されております関係上、私も過去に漁協の役員をしておったときには——この港は船が入ってまいりましてそこに係船した場合に、係船料というか、停泊料といいますか、そういったものは現在でも取られておるかどうか。

それから、船形漁港は非常にすばらしい港になりました。現在川名根岸海岸からまた埋め立てによりましてあの堤防等の補強がなされておりますが、これはどのような意味でやるかどうか、この点についてお聞かせ願いたいと思っております。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ちょっと今資料ございませんので、取り寄せて後ほど御報告申し上げます。

◎議長（渡辺昭夫君） 流山君。

◎23番（流山源次郎君） この点につきましては、別に何か余り頭を悩まさないでください。実は私これ係船料の問題を出したのは、漁業関係者に非常に大きな予算がつぎ込まれておることに対して、ただ港をつくってもらうということでなくして、漁民の方はその港に——自分で港をつくってもらってただ無料で入るということでなくして、やはりそういった港に船をつなぐ係船料、停泊料、そういったものをやはり払わねばいかぬという現実を知っていただきたいと思ったわけでございます。

それから、もう一点の船形港におけるところの埋め立て、また堤防の補強

というようなことは、戦後からここに顧みまして、館山湾の——館山湾と申しますか、千葉県下におきましては台風が直撃してきた場合に漁船の避難すべき港がほとんど皆無でございます。御承知のとおり、館山に台風が直撃するという場合になってまいりますれば、ちょうど南東の方角です。ちょうど城山の方角から台風が入ってくるわけでございますが、このときに、台風が進入したという時点では、確かに館山港というものはそれをある程度避難するに最高の港でございますが、台風の性質というのは、通過すると同時に風向きが変わりまして、今度は北西の風が物すごく吹きます。そのときになると、今度は南東寄りに防御したものが今度船が一回転して、そこにおいて非常に今度風が回るという時点においては困難な、漁船の被害等も非常に大きなものがあつたわけございまして、当時として船形のあぐり等が華やかなころには、台風情報が入りますと、もうしようがなくということで浦賀まで避難をして、浦賀港において台風をかわすというような非常に大きな時間の労力とかそういうものがあつたわけでございますが、そのときに県の役人等について、せめて船形漁協がこの周辺の方は台風から避難するにはどうしたらいいかということでいろいろ県でも設計してもらった結果、現在の船形の堤防、その港にもう一本外側にそういう埋め立て堤防をした場合には、これはもう完全に台風が来た場合にもこの中に避難すれば防げる。そうなると、このまわしかじであっても船形はがけ観音、堂山をしょっている関係上これは十分防げるということで、ただ一つの避難港にするということは、設計が30年前に県の水産課の役員の方との話し合いによってそれが決定されたんですが、ようやくそれが恐らく現在でそういう工事が始まったということは、県の方でもいろいろとそれを頭に入れておって、そういう仕事をしてくれたんでないかなと私のように思っておるんですが、それについて、そういう意思がどうかということで経済部長にちょっと今質問したわけでございます。ちょっとそれについていかがです。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 先ほどの係船料の関係でございますが、現在これは県の漁港になっておる関係で、ちょっと市の方としてはわかりませんで



す。後日調査いたしまして流山議員さんの方にお答えをいたしたいと思います。

また、ただいまの船形の防波堤の補強に関連しましての静穏海域をどうするかという — 台風時期の静穏海域をどうするかということだろうと思うんですが、このことにつきましては、今流山議員さんがおっしゃったように、堤防より沖合にいわゆるテトラポットを設置いたしまして、そして港内の静穏をより図るということで敷設しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 流山君。

◎23番（流山源次郎君） 市でいう育てる漁場ということの説明は先ほどございましたが、私たびたび漁業出身ということで、水産養殖の件につきましてこの議場で何回か質問をしておると思いますが、実は紀州の和歌山県に参りますと、湾内いっぱいハマチの養殖をされております。それで、その漁民の方、水産関係の方はそこにえさを毎日やって、自分たちの生活を立てるためにハマチの養殖に熱中しております。それはもう非常に規模の大きいものでございますが、それに関連して、今度は観光の方が参りますと、観光船に乗せましてそのハマチの養殖をしておる — そのえさを与えるとか、そういうものを見学させて、また観光は観光で観光資源をそこで得ているという、一つの問題で一挙両得にそういうことが成立するんです。

結局、だから我々といたしましては、とかく何か我々館山市で観光事業とか何かそういった事業をやろうということになると、海の仲間が物すごく目を光らせてもうかみついてくるということで館山市は何もできないという話ですが、結局先ほどお話ししたとおり、もう現在は東京湾は操業できるんです、東京湾操業できても、もうあれは非常に世界の貿易港になっておる千葉港、横浜、川崎、東京等に船の出入りのために、あの大きな網を東京湾でもう昔のようにのんきに張りめぐらすことは不可能でございまして、だんだんもう職場はありながら追い詰められてしまって、現在は館山を中心とした漁場しか残っていないんです。

そこで、ですからその漁場の魚もただ館山湾があるから魚が入ってくると

いうことでなくして、御承知のとおり海岸線にはシラスが、飼育する稚魚が育つ、そういう要素があって、そこに入ってくるわけでございますので、何か一つ事業をやるということになれば、漁協との非常に十分な話し合いによってそういったものをある程度守ってもらわなければ、結局最後に残された館山も死んでしまうというような現状で、漁協の人たち別にやることに何でも反対ということでないんですが、そういったことを踏まえて自分たちの立場を考えてくれということで厳しく注文つけるわけでございますが、私なんかこれお話ししたことは、勝浦のように大々的に館山湾を利用した養殖ということを考えられないのか。それに観光もつながってくれば、お互いに傷を受けなくて観光も——両方が両立するんじゃないかという質問もたしかしたことがございますが、そのときに市の方の答弁としては、西岬に水産大学ができたんで、そこで今研究してもらっておるから、そのうちにまた結論が出てきたらというような答弁で終わってしまったんですが、これからもう何年、何十年たっても水産大学からどんな結論が出たか何か全然話は音さたなく、何かこの後本当に市が真剣に考えて、漁民の立場、また市の観光とか、そういうものを真剣に考えた場合には何かちょっとおかしいんじゃないかという気持ちで質問したわけでございます。この点につきましては、私たしかやめました山田収入役さんがとにかく経済部長のときにこの問題を取り上げてやったんですが、この問題については市ではもうそれっきりになったのか、その点ちょっとひとつ。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 確かに館山市にとりましては海というのは観光にとりましても大きな資源の1つだろうと思います。そういうことで、また直接海に携わる漁業の関係者の方にはこれはもう無論のこと大切な海であるわけでございます。そういうところで、現在やはり市が計画しておる、あるいはこういうものをやろうというような事業がありましたら、そういうものをいかに漁業の関係の人たちに迷惑のかからないような方向で、また迷惑がかかるならかかるようなものとして話し合いで、そして観光、漁業が実施できるようにこれからまた漁業関係者ともよく話し合いをして、そして進めた

いというように考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 流山君。

◎23番（流山源次郎君） 次に、これからの市行政のあり方について、館山市の活性化のため、国、県に対する行動の強化に努める考え方についてでございますが、これは私どもといたしましてもこれはこうだ、これはこうだという正確なものをつかんでやったものではないにしても、何か3区からは地元の中村代議士先生のほかには3区からそれぞれの代議士の方が出ておりますが、そのある代議士の秘書からの話を聞きますと、館山の市長さんは広域市町村とか、そういったことで来るときに非常に熱心に国会陳情等各代議士回りをしておりますが、それ以外に個人的に余りうちの先生のところへは顔を見せない。ところが、安房郡下の市長さんは、中村先生を支持していながら、こういう問題については非常に入れかわり立ちかわり物すごく陳情なり請願とか、そういうことをしておるという話を聞いているわけですが、これはお互いに私どもがその執行部でないので、ただそういう話を聞いたというところでございますが、実はもうこれは4～5年前の話になると思いますが、実は川名地区、また小原地区の農家の方が基盤整備の予算をもらった。それを実行しようとしたら、下流の海岸の川名の方が、今基盤整備を上でやられたら、ますます水のはけがよくなって、下の川名地区はそれでなくてもちょっと雨水が降ると床下浸水とか、非常に地域が低いために水害に襲われる。何でこれを——基盤整備やったら我々の生活をどうするんだという反対があったためにどうしてもできない。結局はじゃあそれを解決するにはどうしたらいいかということで、川名のどどん川を改良して水のはけをよくするという線で一応川名の住民と基盤整備の話し合いがついたんですが、それを何とかしてくれとお願いしたら、結局国の予算が終わってしまって、来年度の予算でなければそういうのはつけられないということでその方たちが参りまして、もう市へ行ってもどこへ行ってもいかぬ。これ結局ことしできなければこの何億という基盤整備の予算が流れてしまうんだということで、申しわけないけれどもある代議士のところに行ってくれということで出かけたわけ

でございますが、東京に参りましてその小原、川名の地区の農家の代表の人と話し合ったところが、じゃあ建設大臣の — そのときは小此木さんだと思いますが、小此木さんのところへ行けということでなくして、建設省の第2課かなんか、その係長のところに行けということで案内されて、そこへ行って話したところが、建設省におきましては書類によって — これぐらいの目分量の、それが何かといいますと、一応問題になっておりました川名地区のどどん川川の調査の書類なんです。むしろ建設省の役人の方が我々なんかよりも詳しくて、あれは川の上にうちが3軒建っていると、そういうことまで非常に詳しく知っておりまして、わかりましたということで、やってやるとかやらぬとかの話聞かなかったんですが、ことし予算でだめだといってもう困り果てた農家の方が帰ってきて、1週間たたないうちに今度そこが工事が始まっちゃっているんです。それで、うちが立ち退きして工事が始まっているという現実を見たときに、やはり我々としては国というところへ行けば、頭になる人が行けば行くほど、1つはだめでも、不可能でも、この点は可能性はあるんじゃないかということをしみじみと身をもって体験したわけでございますが、この点につきまして市のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 事業を実施する場合に、市といたしましてはやはり直接関係のある上級官庁でございます県の方とまずよく相談するわけでございます。その中でいろいろやはり県としてもなかなかできない問題が出てくるわけでございますが、一般的なものは大体県を通じまして、そして国の方に上がっていくわけでございます。しかしながら、特殊な問題、そういったものにつきましては、県ではかり知れない問題等がたまたま出てまいります。そういうときには直接国の方に参りましてこういう事情であるということを御説明申し上げて、そしてできる限り補助採択なり、またそういう計らいなりをしていただくようにしております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 流山君。

◎23番（流山源次郎君）　今ベルが鳴ってもう時間がないと思いますけれども、最後に1点だけお聞きしたいんですが、市内建設業者育成保護のためのどのような考えを持っているかということでございますが、私よくいろいろな関係で国道128号線を通るわけでございますが、今の芳蘭の前から入る道路は、あれは市道と思いますが、あそこもとは何か石井興業さんとかそれぞれ市の業者が、育てる業者が何か工事やったということはもう前に見ておったんですが、最近——ちょっとこの前ですが、1カ月ぐらい前ですが、そこへ行きましたら、あの入り口に国土開発の看板が出ておって、我々としては、議会としても館山市の活性のためになるべくできる問題だったら館山市の業者に仕事をやってくれということはもう何度も議会から市に、執行部に対してお願いしてあるわけでございますが、これに対しまして市の方としてはなるべくそれに心がけるということで、最近是非常に協力していただいているんですが、それ見てこれは——国土開発は大会社でないかなというふうな感じがいたしまして、それでちょっとたまたま市の関係者にお話聞いたら、あそこは国道に面しておるから、警察問題でその許可とかそういったものが非常にうるさい。そのためにこういう大会社が手なれておるからこういったものをやらせたんだということで、そういうわけでございますので、我々としても警察の問題が、警察の許可問題とかうるさければうるさいほど地元の業者に苦勞させて、苦勞されて警察と折衝されればされるほどその人はだんだん警察の対策も覚えてくるということでございますので、今後そういったことを考えまして、なるべく地元の業者にそういったものを優先にやらせるというふうなことをお願いしたいんですが、この点についてできたら一言お願いしたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君）　総務部長。

◎総務部長（二通英雄君）　ただいまのお話は今年度発注の市道の8015号線の交差点改良だと思いますが、これにつきまして日本国土開発が受注した経緯でございますが、この工事は国道の工事が一部ございまして、工事中的交通渋滞、あるいは工事に接する店舗の営業に極力支障を来さないように、施工能力のある業者あるいは関係機関との対応が十分図れる業者ということで

指名したということでございまして、市内業者についてはできる限り今発注しているところでございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で23番議員流山源次郎君の質問を終わります。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 半澤市長、市長は今限りで退任なさることを表明されました。4期16年の長い間市政発展のために御尽力、大変に御苦労さまでした。

今回私は46回目の行政一般質問を行おうとしておりますが、これまで45回の質問にいつでも市長が答弁をなさってまいりました。これが最後の質問だと思いますと、何か心に感慨がわいてまいります。市長、あなたは広く、そしてまた深い見識をお持ちで、私にとって最も手ごわい相手でございました。45回のこれまでの質問では、そっけない御答弁に何とか前向きの言質を引き出そうと知恵を絞ったり、また真っ向から意見が対立し、激論を交わしたこともたびたびでした。その一方、私の提案もたくさん市政に取り入れられました。市議会での質問はいつでも緊張の連続で、半澤市長、あなたにそのたびに一つ一つ教えられてまいりました。政治的立場は違いますが、私は46回にわたって館山市政のさまざまな問題点について質問し、市長、あなたと議論を積み重ねてこられたことを私自身にとって大変に幸運なことであったと思います。ボスではなくリーダーになれるとの所信の中でのお話がございました。私の自戒の言葉とさせていただきたいと思っております。

それでは、最後になりますが、御質問に入らせていただきます。まず、第1点はリゾート開発の現況についてでございます。去る7月28日、NHKテレビで放映されたリゾート開発の特集をごらんになったでありませんか。リゾート開発になぜ各種の大手企業が参入をするのか、その理由について、館山のリゾート開発を進めている熊谷組を実例として取り上げていました。この中で、リゾート開発の計画では、ゴルフ会員権の販売などで収支では170億円余の剰余金が計上されておりますが、問題なのは土地の価格の含み利

益が3,000億円にはなるだろうという点であります。同規模のリゾート開発がそのほかに2カ所ありますから、それらの含み利益の合計は、今後の土地の価格の推移にもよりますが、1兆円にも上るのではないかと思います。リゾート開発による開発利益は地価の高騰ということで、一部の大手企業に吸い上げられていくという構図が見事に示されておりました。道路整備や上水道整備などの社会資本の投下に伴い土地の価格の上昇などの含み利益が発生いたしますが、本来これらは一部の大手企業の大もうけなどにすべきではなく、地域社会に還元されるべきであります。

そこでお尋ねをいたします。リゾート開発は一部の大企業の大もうけをもたらすものではないかと思うが、この点についてどのようにお考えになっておりますか。

次に、第2点であります。リゾートマンションの建設規制問題についてお尋ねをいたします。私は神奈川県真鶴町に視察に行っていました。リゾートマンションの開発をめぐる町長、助役が辞任し、この7月には我が党も推薦したリゾートマンション反対を掲げる三木邦之氏が、元社会党の町議であります。事実上のリゾートマンション推進派の青木氏を破って当選をいたしました。我が党は、町政の中心課題となっているリゾートマンション反対では政策で一致できるので、保守の立場にある方でありましたが、この方を推薦したところであります。

この町はわずか7キロ平方という大変狭い町ではありますが、17ものリゾートマンションの進出が計画されておりました。町としては、この9月議会に町営水道の給水制限条例と地下水取水を制限する条例を提案する準備をしているとのことで、いわば水攻めでこれ以上のリゾートマンションの進出をストップしようというのであります。真鶴は水源に恵まれない町で、隣接する湯河原町や小田原市から水を得ています。リゾートマンションに給水する水源の余力はないというのであります。水道法第15条では、水道事業者は正当な理由なくして給水を拒んではならないとしていますが、水源の不足、現に水が足りないなどはこの正当な理由に当たると考えられます。

当市もリゾートマンションの問題は大きな問題になってまいりました。ま

た、水の問題も、現在進められている利水計画でも水が来るのはまだ5年以上も先の話であります。当面水はありません。少なくとも南部利水の水が来るまでの間リゾートマンションは認めない、こういう姿勢が必要ではないかと思うのでありますが、いかがお考えでいらっしゃいますか。

次に、仮称館山リゾートマンションの都市計画法に基づく県知事の開発許可が8月の20日に出されましたが、特にこの開発許可には条件がつけられてはおりません。このリゾートマンションは市営住宅の身体障害者住宅に深刻な日照障害を及ぼします。市はこの問題で――議会でもたびたび指摘をしてまいりましたが、どのような結論を出し、県に対してどのような意見を出したのであるでしょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、第3点目、海の浄化対策についてであります。公共下水道の計画について先日御説明がございましたが、実際に整備されるのは20年後ということでありました。海と川の汚染はもはや一刻の猶予も許されません。昨年相浜の海水浴場が水質汚染のために閉鎖され、急遽流入河川の浄化施設が設置されました。この浄化施設は順調に稼働し、本年は海水浴場も開設され、無事に済んだようであります。やればできるということを図らずも示した結果になりました。本年度の当初予算では、下町排水路、北条海岸排水路、六軒町排水路、北条中央排水路、南町排水路、那古排水路の6排水路についての調査を実施するとしております。これらの排水路の浄化施設の設置は、海の浄化対策として即効性のあるものとして大変期待されます。

そこでお尋ねをいたします。相浜の浄化施設の実績についてどのように考えておりますか。公共下水道の計画が示されましたが、これら6排水路の浄化施設の設置は急ぐべきではないかと思うのでありますが、どうお考えでありますか。

次に、第4点目であります。来年度の固定資産税の評価がえについてであります。前回の固定資産税の評価がえ以降、地価の暴騰ともいうべき状況が続いておりますが、それらが固定資産の評価に反映されるとすれば、固定資産税はもちろん、都市計画税、国民健康保険税、保育料などのアップにつながり、市民生活に重大な影響を及ぼします。土地投機による地価の異常な高



騰を市民の土地評価に反映させることはあってはならないと思うのであります。平成2年1月1日現在の公示地価は、館山では商業地で48.3%、住宅地では61.4%も前年度に対して上昇しております。3年前の前の評価がえでは平均上昇率はわずか3%でありましたから、今回の評価がえでは一体どうなるのか大変に今から心配しているところであります。土地の暴騰による増税が心配されるのでありますが、どのように考えておりますか。評価がえを中止するなどの措置が緊急に必要なのではないかとと思うのでありますが、この辺についての所見をお伺いをいたします。

第5点目についてであります。市長選挙の選挙公報の発行についてをお尋ねをいたします。11月の市長選挙に向けてさまざまな動きが出てまいりました。有権者がその判断をするに当たって、選挙公報は大事な手段になっております。ところが、肝心の市長選挙にはこの選挙公報の発行は法的な義務づけはございません。市町村が任意に決めることになっております。今回の市長選挙は差し迫ってはいますが、有権者が間違いのない判断ができるためには正確な情報が必要であります。市長さん、任期の最後に当たっての仕事として、ぜひ市長選挙のあり方として公報の発行を実施していただきたいと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

以上5点にわたってお尋ねを申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、リゾート開発の現況についての御質問でございますが、本市で推進しておりますリゾート法に基づく承認プロジェクトは、いずれも大規模な複合開発計画であり、雇用の拡大を初め地域の振興に資する開発計画でございます。御指摘の件につきましては、民間企業でございますので、採算性は考慮されているところでございますが、これらの計画は本市のリゾート開発の理念に整合したものでございます。したがって、単なる不動産開発ではなく、館山市の新たなまちづくり施策の一環として事業が進められるよう

企業を適切に指導しているところでございます。

次に、リゾートマンションの規制についてでございますが、リゾートマンションへの給水制限についてという御質問でございますが、水道法第15条に給水区域内での給水申し込みは正当な理由がなければこれを拒んではならないと定められておりますことは御指摘のとおりでございます。現在リゾートマンションを含む大口需要者への給水は館山市の現状においては困難な状況にございますので、建設に当たっては一般家庭並みの給水と、残りは自己水源で計画されるよう御協力をいただいているところでございます。今後も南房総広域水道企業団の通水までの間、この制限給水を実施してまいりたいと考えております。

次に、館山リゾートマンションの開発行為許可申請についての御質問でございますが、日影、風害、電波障害等の生活環境対策が必要であるという趣旨の意見を付して進達をいたしました。なお、地元住民との協議経過報告及び反対陳情書等を参考として添付いたしました。

次に、海の浄化対策についてでございますが、海の浄化対策につきましては、浄化対策の最も有効な手段は公共下水道の整備にあります。その整備はかなりの期間を要します。したがって、現在実施しております主要6排水路の現況調査の結果を踏まえ、公共下水道整備計画との整合を図りながら、また平成元年度に建設いたしました相浜都市排水路浄化施設が大変効果を上げたという事実を参考にいたしまして、早期に実施できるよう検討を進めてまいります。

次に、第4点、固定資産税の評価がえについての御質問でございますが、御案内のように固定資産の評価がえは、3年に1度資産価値の変動等に合わせ、評価の適正化、均衡化を図ることにございまして、増税を目的とするものではございません。土地税制は現在税制調査会土地税制小委員会で審議を進めており、いずれ国及び県から具体的な指示平均価額が示されることとなりますので、それに基づきまして価格を決定いたしたいと存じます。

また、評価がえを中止してはどうかという御意見でございますが、地方税法の規定によるものでございますので、本市のみ中止することは不可能でござ

ざいます。

次に、第5点、市長選挙の選挙公報の発行についてでございますが、これは管轄が選挙管理委員会でございますので、選挙管理委員会委員長より御答弁を申し上げます。

終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 選挙管理委員会委員長。

（選挙管理委員会委員長加藤 利君登壇）

◎選挙管理委員会委員長（加藤 利君） 市長選挙における選挙公報の発行につきましては、現在任意制となっておりますが、今後県内の動向等を見ながら、発行する方向で対処してまいりたいと考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） リゾート開発の現況についてという点で2つほどお尋ねをいたしますけれども、やはりリゾート開発、今後のまちづくり等、いろんな地域全体の、館山市全体の計画との関係でいろいろと協力も得ながら指導もしていかなきゃならぬ、いろんな問題がたくさん出てくるんだというようなことでありましたけれども、やはり企業の社会的な責任、地域社会における責任、こういうものは非常に大事な点だと思いますので、こういう点をひとつ据えて今後に対処していただきたいと思うんですが、その辺についてどう受けとめられるか。

それから、これはことしの3月の市議会で、この開発の問題で、白浜スポーツプラザ——白浜町の開発計画がございまして、これが排水関係では巴川になるということで、館山市の地域がその排水先になるということで、館山市の協力がなければこれはできないという問題があって、白浜町からも協力の依頼が来ているというようなことがございましたけれども、この問題について市としてはどのような見解を持つのかということについて検討するという御答弁があって、その後具体的にどのように検討されてこられたのかお聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） せんだってのテレビ放送に関連いたしましたの

御質問でございますが、市といたしましては単に土地開発だけではなくて、こういうリゾート法に基づく開発でございますので、いわゆる採算性のある仕事だけ、いわゆるうまい仕事だけをするのではなくて、非採算的なものもあわせてやってほしい、こういうことで市としてはいろいろ指導、誘導しておるところでございます。そんなところで、将来にわたりまして完成するまで見きわめていきたいというように考えております。

また、白浜スポーツプラザの関係でございますが、昨年12月にリゾート法に関する協力方の依頼が白浜町の方からございました。それにつきまして、館山市といたしまして白浜町にも参りましていろいろその真意をお伺いすると同時に、平成2年の5月でございますが、市の企画審議会を開催いたしました。これは部長以上の職員といたしまして、部長以上、それから収入役さんあるいは助役さん等入りまして、助役が会長の委員会でございますが、そこにおきましていろいろ討議をしたわけでございます。その結果、水資源の涵養林の保護に努めるために非常に大切だというような地域から、開発することは遠慮してほしいというような意味合いのもとに白浜町の方に回答してございます。それに対しまして、白浜町の方からはまだ何ら次のアクションが出てきていないという状況でございます。また、3月議会が過ぎましてから、巴川流域の関連するであろうと思われる地域の流域調査もいたしまして、いわゆるその河川からどれだけ水がくみ上げられているかというようなことも調査をいたしました。そういう結果、ただいま申し上げましたようなことで白浜町の方に回答いたしたところでございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） リゾートマンションの問題に移らせていただきます。

水道条例の、制限条例ということを実鶴町では具体的に行う、条例にするというようなことで、それ以外にいろいろ全国各地の資料を見ますと、指導要綱ですとか、あるいは内部的ないろんな通知ですとか、そんなような形で給水の制限を事実上行っているというようなことがあるわけですが、館山市

の場合には特にこのことについて規定だとかいう形で——議会での答弁という形でこういうふうにしていきたいということは行われたわけですが、市長選挙の後市長が変わりますとまたこれは変わる問題ですから、しかしこの問題は非常に重要ですから、やはりきちんとした規定なり、業者を説得するという問題もあるでしょうし、そういう点で整備をしておく必要はないのかどうか、現在で十分業者とも大綱上問題はないというふうに考えられているのかどうか。業者にしてみれば、そんな一遍の指導などでは了解できないなんていうことで、争われることも考えなきゃいけないと思うんで、その辺はどういうふうになりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 答えいたします。

先ほどの御指摘の中で、水道法第15条の給水義務拒否における正当な理由について述べたわけですが、その中で給水が困難な、あるいはまた不可能な場合、それから水道事業の適正な運営が阻害される場合に限られるというような形になっておりまして、現在多量の水を供給するということは困難な状態でございますので、今後の南房総広域水道企業団からの受水を受けるまでの間、業者に対しましては指導、御協力をいただく、こういうことでお願いをしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 今のところはそういう形で進んでいるようでありますから、それでいいのかなとは思いますが、この問題でいろいろ各地のを聞きますと、業者の方もなかなか強硬なところもあるようですから、そういう点ではあるいはそういうことも必要になるのではないかなという点で、各地の実例などもぜひ御検討いただいて、今後ますますその点についての対処についてしっかりしていただきたいなと思います。

次の問題ですが、館山リゾートマンションの問題については、日照や風害など近隣周辺住民のこうした問題をクリアするようにというような、そういう点についての意見を付して県に出したというお話なんですが、実際に県の

開発許可では何らの条件がついてないというふうに理解をしておるんでありますけれども、市としてはそういう点では言うべきことは言ったんだということになろうかと思うんですが、県の方が全く条件を付さなかったというふうにこの問題について公示の内容から判断すると理解できるんですけれども、そういう理解をしてよろしいでしょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 許可につきましては全く何ら附せんがついておりませんので、条件等もついておりませんので、県はいろいろしんしゃくした中で、現在の指導要綱あるいは条例等から許可すべきだということに立ったものだということに私どもは理解しております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そういたしますと、市の方では意見を出したにもかかわらず、県の方では特に条件をつけずに許可を出した。周辺の住民の意向を尊重するという点では、私は県はけしからんと思うんです。市町村の意見を尊重するのが当然なんですから、業者に対してもそういう意見を——市からこういう意見があるから、こういうことをきちんとクリアするようという条件を付すなり、またその条件がクリアできない以上許可をしないとかということが当然必要であるにもかかわらず、地元の市町村の意向が組み入れられなかったというふうに理解せざるを得ないんです。

このまま進みますと、事態は建築確認申請に当然移行してくるかと思うんです。建築確認申請ではやはりまた館山市が一番最初の窓口という形になるかと思うんですが、その辺で市が上げた意見、これを引き続きこの問題についてどうなのかということで業者を指導するという余地は残されているんじゃないかなと思うんですが、この辺についてはいかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 前回の議会の際にもお答え申し上げましたが、市といたしましてはできるだけ住民の理解を得るようというところで、これからは業者を指導していきたいというように考えております。また、現に指導しております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そこでお尋ねしたいんですが、県の大型建築物の指導要綱準則ということで、県の方がこの9月1日で通知を市町村に対してしたと新聞でも報道されましたけれども、リゾートマンションについては自然公園地域は県自身が規制を強化する。しかし、周辺地域についてはいろいろ問題も、各市町村で状況も違うから、市町村はこういう準則に沿って自主的に決めてやりなさいよというような準則が示されたわけです。

館山市は既にリゾートマンションに関する指導要綱をこの1月1日で実施をしているわけでありましてけれども、私は県の指導要綱準則から改めてこの館山市の指導要綱を見直した場合に、やはり改定すべき点が多々あるんじゃないかと思います。それはどういう点かといいますと、一番基本的な問題は、この準則の中に盛られている県の考え方というのは、どうも市町村レベルでこうした問題については——住民との間の紛争、これは十分審議を尽くしてクリアして、県に持ってくる時にはそれを解決して持ってくるよ、こんなような趣旨が非常に感ぜられるわけです。そういうことを言っている県が市から上げた意見をないがしろにするという、だからまたとんでもない話なんです、一応そういう建前をとっているわけで、そういう点では住民の意見の具申権とか内容についての公開ですとか、館山のリゾートマンション指導要綱では盛られていない点が多々あるんじゃないかなと思うんで、そういう点から見直しが必要じゃないかと思いますが、この辺いかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいまの御質問でございますけれども、リゾートマンションの指導要綱見直しにつきましてでございますけれども、中高層建物は高さを含めまして適正な規則について関係部課において現在検討を重ねている段階でございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そういたしますと、現在検討を重ねているという

ことでありますから、そうするとこの検討も急がなけりゃならないという性格もあるので、おおむねいつごろにこの結論を出すのか。10月1日からやるつもりでいますというのか、あるいは来年の1月1日ぐらいの見当で検討されているのか、その辺はいかがでありますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 私どももできるだけ一日も早くというふうに考えておりましたが、ここへまいりまして県の要綱が9月1日に出てきましたので、またそれをひとつ見直さなければいけないという面もございますので、ちょっと今のところはっきりといつまでというような期限は切られませんが、一日も早くというようなことで考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） このリゾートマンション——館山リゾートマンションの問題では、経済部長さんに御答弁をずっと大体中心的に行っていたいたんですけれども、民生部長さんにもお聞きしたいんですが、私調べてきましたら、心身障害者対策基本法という法律がございまして、この法律の中で、障害者のために国や県あるいは市、こういう地方公共団体は非常に住宅の確保について特に意を用いなきゃならぬ、また、その住宅もそういう身体障害者にとって非常に生活をする上で適当なものにどんどん整備をする、その促進を図らなきゃならぬ、こういう努力義務規定が定められているわけです。そういう国、県、市、そしてまた国民にはそういうことについての協力義務というものがこの中でうたわれているわけです。この館山リゾートマンションの場合には、身体障害者住宅という点で所管が建設課ということで、ともするとそういうサイドからの議論が先行してきたわけなんです、そういう障害者福祉という点からはやはり物を申さなければならないというお立場だろうと思うんですが、こうした心身障害者対策基本法で住宅の確保について国、県、市の責任をうたっていること、こういう点から考えた場合に、現在の館山リゾートマンションの問題をどのようにお考えになれますか、御意見をお聞かせいただきたいと思うんです。



◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 障害者福祉の立場から考えますと大変問題があるかと思いますが、ただ法律によってリゾートマンションというのが考えられている以上、そこらの整合性若干の問題あるかと思いますが、やむを得ないんじゃないかというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 民生部長さんがやむを得ないと言っちゃいけないんです、これは。そこはやっぱり民生部長さんの立場から障害者福祉という点で言うべきことは言っていたきたい。特に、リゾートマンションの問題で、実際には民生部長さんは協議の枠の外に置かれておられたんじゃないか。市の中のこの問題についての審議会ですか、その中にもたしかメンバーには入られておらなかったんじゃないかなと思うんですが、そういう点でやはり障害者福祉という視点からこの問題改めて光を当てるといふことが必要だろうと思うんです。

それで、建築確認の段階という問題であとチェックが残されているわけで、この段階で——住民との話し合い今どんどん進めておりますね。ですから、住民との話し合いがつくということ、あるいはつく見込みができたとか、そういう段階になればこれはまた一つの考え方があろうかと思うんですが、やはりここは——今さまざまな問題が解決しておらない段階でやはり建築確認が出されても、事前の協議、これを尊重するということで業者を十分指導する必要があるんじゃないか、この辺についていかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 市の方といたしましては、建築確認申請を出す前にできれば関係者と協議が調うように指導していきたい。また、それはどういう形になるかは別といたしましても、ある程度了解点に達するような方向ができれば我々としても非常に結構だろうということで、そんなことで今業者側にもよく話をしております。そのようにいたしたいと思います。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） この問題で業者と住民との間の話し合いがつくように十分市としても建築確認の前の段階で指導をするというお話で、いわゆる都市計画法に基づく地面の方の許可の段階では、いわば見切り発車みたいな形が住民から見ればとられたわけなんですけれども、建築確認の段階でそれを——今までの住民からの不信を払拭するぐらい十分その辺についての市の対応を期待したいというふうに思います。

それで、業者から出されてきた中で、二、三どうも市の方としてはどういうふうに考えているのかということで確認をしておきたい問題があるんですが、排水路の問題については、那古の都市下水路、ここに排水をするということで、業者は市からは排水は全く問題がないという報告を得ているということなんでありますけれども、現況でも大分あの那古の都市下水路は問題がある。排水能力がもうオーバーだということで、たしか去年の時点で調査をされたわけです。この那古の下水路の拡幅の問題含めまして調査をされているはずなんで、どういう意味なのか。業者は全く問題がないということで市からの回答を得ているというふうに言っているんですが、市はこの那古下水路の排水についてどのようにお考えになっているのか。

それから、全く駐車場問題について話がどうなっているのかなという点がまた出てきまして、53世帯に対して——5分の4という市のリゾートマンション指導要綱の規定がありますけれども、業者が言っている駐車場台数は30台というのもまた——これは書面で出してきたわけで、そうすると従来43台、5分の4ですと必要ですよと言っていた数字からさらにまたずっと少なくなった数の30台というような問題が出てきているわけなんです。市はたしかその5分の4ということで指導をしていたというはずなんです、この辺については市はどのように理解をしているのかお聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず、排水路の関係でございますが、那古排水路につきましては、御案内のようにいわゆる排水能力の点で心配があるもの

ですから、一応調査をしておるところでございますけれども、これは主に国道よりも南側の方が非常に心配であるということから、山側といいたいか、そちらの方を主体的にやっておるわけでございます。下流の方につきましてはほとんど心配がないんじゃないかということでございます。

それから、駐車場の関係でございますが、53戸というものに対しまして市の方では8割駐車場を整備しなさい、こういうことで言っておるわけでございます。業者が30台と言っているのではないかということでございますが、それにつきましては、いわゆる駐車場として1台1台区切りをつけた部分、これが30台だ、それ以外に敷地内に15台駐車可能の場所がございますということで、それはそれなりに私どもも図面上で確認しております。そういうことで、45台駐車可能であるということで理解をしております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） たしか駐車場は5分の4以上というのが駐車スペースならばいいというのもまた随分おかしい話なんですが、そのことはそのことでわかりました。

今の那古の下水路の問題でありますけれども、排水能力の点で山側に確かに——国道より山の方問題ありますけれども、しかし大雨が降りますと、国道より西側、そこも現況いっぱいになりますから、まして一番その下流のところでは大量に出ますと、これは上流全部ひっかかりますから、ですからそんな単純な問題じゃないと思うんです。下流であるからこそ上流に全部影響が出ますので、そういう点で改めてきちんと調査をしていただきたいと思います。

それから——時間があれですから——固定資産税のところなんです、対象年度の公示地価なり指示価格なりいろんな価格ありますけれども、調査時価なり、この上昇率、前回3年前のときには3%を——結果的には平均的な数字として——0.5%のところと最高のところが11%ということで、平均は3%ということで決着をしたわけですが、現在この対象年度の公示地価の上昇率、こういったものは館山市の場合どのくらいだというふうに具体

的にお示しをいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 土地の上昇でございますけれども、現在税務調査会土地税制小委員会の方で審議をされておまして、それが出まして県の方に来ます。それから市の方に来るわけでございまして、現在それはまだ——具体的な指示といいますか、そういう価格ございませんので、ちょっと率はわかりません。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） それは来なきゃわかりませんが、その前提になる数字、これは公示地価ですとか、地価の場合にはいろんな——調査時価ですとかございますね。その過去3年間——去年1年間の公示地価ははっきりしているんです。館山市の新塩場の住宅地が61.4%上がっているんです。1年間ですよ。そうでしょう。だから、その前の3年間——今度の対象になるその3年間でどのくらい上がったというふうに市としては理解しているのか。だから、それがそのままこの指示価格やなんかに反映されたら大変なことになる、大增税になるということは明らかなんです。ですから、その前提となる数字がどうなんですかということをお伺いしているんです。これはもう公開されているものだから、市としても数字はわからないというはずはないと思うんですが。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 固定資産税の評価につきましては適正な時価ということで、その期待価格を排除してございますので、そういうものをこれから審議して出すということでございますので、これに必ずしもそういうものが反映されるということではございません。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） ですから、そういうことが反映されちゃ困るから、もともとの数字はどうですかということを聞いているので、今手元になれば後で具体的にじゃあお示しをしていただきたいと思います。資料として提出をしていただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 資料についてはまた取り寄せて神田議員の方に渡したいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 最後に、市長選挙の選挙公報の発行について、県内の動向を見ながら発行の方向で検討していきたい、こういう御答弁でありましたから、市長さんの方でもぜひ — これは予算の伴うことでありますから、市長選挙の重要性ということから、予算面でもそうした措置をやるということになったらぜひお願いしたいと思うんです。

以上で終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で11番議員神田守隆君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時48分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 御質問を申し上げます。

最初に、10日のこの本会議場におきまして半澤市長の引退表明があったわけでございますけれども、私の心に大きな感銘を与えてくださいました。特に、マックスウェーバーの言葉は市政を志す者としてよい教訓になりました。館山市政をこのような政治理念を持って貫かれたことは、館山の将来にやがて大きな花を咲かせてくれるものと確信をいたしております。

しかし、この16年を振り返ってみると、私は常にアインシュタイン博士の相対性原理とダーウィンの進化論をもとにした唯物史観を政治理念としてまいりましたので、常に対立する中からこそ新しいものが創造されるという考え方に基づいて政治活動と取り組んでまいりました。したがって、市長と議員、保守と革新の立場から激しい論争を繰り返してきましたが、今になっ

てみると本当に恥ずかしい次第でございます。半澤市長の寛大な御指導に改めて感謝を申し上げます。

そこで、私は半澤市長16年の文化福祉都市の建設の成果の上に、これから経済優先の市政を築き上げていかなければならないと思っているところでございます。

次に、次の市長は11月18日の選挙で市民によって決められるわけでございますけれども、これから質問をする12項目については市政に大きなインパクトを与える事柄でございます。半澤市長の忌憚のない御意見を伺わせていただき、今後の市政の糧といたしたいと存じますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

まず、第1に市庁舎の建設と経済の振興について伺います。富士ディーゼルの解散、サカモトデパートの閉鎖、観光客の減少等により、館山市の経済は非常に厳しい状況にあります。その上、若い人の就職する場所もなく、人口も減り、大変な事態を招いておるところでございます。このような状況を克服するため、どのような経済政策を展開してこられたのでしょうか、この点についてお伺いをいたす次第でございます。また、昨年度の予算に盛り込まれた市庁舎の建設でございますが、その見通しについてお伺いをする次第でございます。

第2、地場産業の育成と富士ディーゼルの跡地利用について。地場産業の中核を担ってきた富士ディーゼルの解散は、数多くの下請、協力工場とともに館山市に大きな打撃を与えております。そこで、これにかわる地場産業の育成計画をどのようになされるつもりなのか。また、跡地利用についても、公共用地として確保し、計画的に利用することができないものかお伺いする次第でございます。

3、リゾート開発と地価の高騰について。市民の大きな期待を担い、房総リゾート地域整備構想が国の承認を受け、館山市は重点整備地域に指定されました。しかし、その実態は3つのゴルフ場の建設であり、500ヘクタールの山林原野が荒らされ、その上異常な地価の高騰を招いているところでございます。去る7月28日、NHKスペシャル「日本リゾート列島、ふるさとが

変わるとき」が放映され、館山市のリゾート開発が地域振興や地元住民の幸せなどとは全く関係なく進められていることが紹介されました。また、国土利用計画法違反で県から告発されている神余地区のゴルフ予定地についてもどのようにお考えになられておるのかお伺いをする次第でございます。

4、海洋性リゾートタウン構想とウェルネスについてお尋ねをいたします。昭和61年にできた館山市総合計画の柱は海洋性リゾートタウンでございます。そして、理念としてウェルネスが決まり、拠点として神戸地区にウェルネスパークが計画されております。このウェルネス構想の現況と展望についてどのようなお考えを持っておるのか教えていただきたいと存じます。

5、半島振興法による地域の活性化について。半島であるがゆえに取り残された地域を活性化させるため、法律により館山市も全国の19カ所に選ばれ、過疎からの脱却に大きな期待がかけられております。しかし、ふたをあけてみると内容はございません。昭和62年度の施政方針の中でも当地域の振興の柱となる半島振興計画がスタートする画期的な年であると謳歌しておりますが、その成果はどのような状況になっておるのか、今後どのような方向に進もうとしておるのかお伺いをしたいと存じます。

6、消費税と都市計画税の廃止について。消費税は矛盾が大きく、国民の多くが反対をしていることは衆参の選挙で明らかとなっております。また、都市計画税も再三質問をしまいましたが、安房郡内の市町村では課税しているところは1つもなく、館山市だけでございます。税の公平と税に対する市民の信頼の面から見ても、消費税と都市計画税は廃止すべきだと思うのでございますが、この点についてのお考えを伺わせていただきたいと存じます。

7、余りにも低い市民1人当たりの予算について。このことにつきましては議会ごとに問題になっているわけですが、市民1人当たりの予算については県平均よりも非常に低いのでございます。この点について改善の方法はないものか、この点についてお尋ねをする次第でございます。

8、総合病院の建設と医療制度について御質問を申し上げます。最高の医療を容易に受けたい市民の願いは満たされているとは思えません。診断は市

内で、治療は鴨川や木更津に行く人がほとんどであるからでございます。高齢化社会を迎え、今一番市に望まれていることはすぐれた施設を持つ総合病院の建設であると思います。この点について現状はどのようになっておるものか、またこれからの展望についてお聞かせをいただきたいと思うのでございます。

9、水道の未給水地域の解消について。館野、九重地区の未給水地域の解消は市政にとって大きな課題でございます。そして、給水可能な水量が見込めながら、地元の同意が得られず硬直状態にございます。しかし、このままでは住民の納得を得ることは不可能だと思うのでございます。平成7年に完成をする南部地域水道企業団の設立までの間の対応策はどのように考えられておられるのかお聞かせをいただきたいと思うのでございます。

10、J R 館山駅の横断橋と西口開発についてお尋ねをいたします。西口の土地区画整理事業の実施計画も建設省から許可され、これから仮換地の作業に入る段階に至りましたが、J R の西口ができないことには開発は進みません。そこで質問をいたします。早急にJ R の横断橋を今度こそ完成させなくてはならないと思うのでございます。また、関係地主が中心となり、西口エス・シーが設立されましたが、これに対する援助は考えられるのかどうなのか、この点についてお伺いをする次第でございます。

11、東関東自動車道とJ R の複線化について。東関東自動車道館山線の開通とJ R 内房線の複線化は館山市の発展に欠かせない問題でございます。しかし、外房の方がテンボが早いように見受けられます。これは関係市町村の取り組みの違いであると言われているわけでございます。そこで、東京湾横断道の完成の平成7年には東関東館山線の開通の見込みが立つのでしょうか、この点についてはどのようにお考えになっておるのかお聞かせをいただきたいと思うのでございます。

12、市道の整備と側溝、排水路についてお伺いをいたします。昨年7月市で実施をした市民意識調査の結果、住みにくい理由の第1が道路と下水道で37.8%ありましたことは周知のとおりでございます。だれが見ても館山市の道路はおくれておるものと思われまふ。特に、市道には排水路がなく、困っ



ている人が非常に多いようでございます。文化都市としての面目を保つ意味からも急がなくてはならないと思うのでございますが、この点についてはどのようなお考えをなされておるのかお尋ねをする次第でございます。

以上、質問を終わります。よろしく御答弁をお願いいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点は市庁舎の建設と経済の振興についてという御質問でございますが、工業の振興につきましては、先端技術産業である半導体製造工場のNMBセミコンダクターの進出実現に協力してまいりました。今後も自然景観を重視した公害のないインダストリアルパーク構想の実現を強力に推進し、雇用の拡大と地域経済の振興と活性化を図るべく計画しているところでございます。

また、商業政策につきましては、今まで商店街活性化のために館山銀座商店街のモデル商店街事業、下町の商店街共同施設整備事業を実施してまいりましたが、当市の商業振興施策の中で最も重要なものは駅周辺の整備事業であります。したがって、館山駅東口再開発事業、西口土地区画整理事業を推進すべく努力してきたところでございます。

観光につきましては、従来の夏季集中型から脱皮すべく、花摘み、観光イチゴ狩り、城山公園、館山運動公園の整備、さらにスポーツの里づくり等の事業を実施してまいりました。今後は首都圏のリゾート地としてより高質な海洋性リゾートタウンの事業を推進してまいるところでございます。

次に、庁舎の建設につきましては、市制施行50周年事業を検討するための企画検討委員会あるいは市民会議におきまして御提案をいただき、その上で平成元年3月議会におきまして皆様方の御了承を得て基金を設置したものでございます。建設の時期等につきましては、市民のコンセンサスを得ることが最も重要であると考えております。さらに、庁舎の性格づけといたしまして、市民が訪れ、憩い、自由に活用できる空間としてのシティーホールの概念を具体化する施設にしたいと考えておりますので、民意を十分把握し、検討を重ねてまいりたいと考えております。

次に、第2点、地場産業の育成と富士ディーゼルの跡地利用についての御質問でございますが、当該地は地域活性化のために重要な土地であり、都市施設用地等公共用地として確保したいという考え方から、土地所有者に対してもその旨申し入れをしてございます。

第3点、リゾート開発と地価の高騰についての御質問でございますが、まず過日のテレビ放送に対する市の考え方についての御質問でございますが、テレビ放送は開発計画の一面のみが強調されたものと考えております。同開発計画全体といたしましては、採算部門と不採算部門の両面を備えた複合開発でございます。リゾート開発は、雇用の拡大、地域関連産業の活性化等の経済効果に加え、人的交流等の非経済効果もあり、地域の振興に大きく寄与するものだと考えております。

次に、国土利用計画法違反についての御質問でございますが、この件につきましては、県の調査によりますと、神余地区のゴルフ場予定地の一部について同法の届け出をせずに土地取引が行われたもので、まことに遺憾であると考えております。今後県及び検察当局の徹底究明が望まれるところでございます。

4点目、ウェルネスリゾートパーク計画の現況と今後の展望についての御質問でございますが、昨年度に基本計画を策定し、基本方針や土地利用計画及び施設計画案等をまとめたところでございます。計画概要につきましては地域開発特別委員会並びに建設経済委員会におきまして御報告申し上げたところでございます。今後この調査に基づき、国、県、関係機関並びに地元関係者等と協議しながら計画の実現化を図ってまいりたいと考えております。

第5点目、半島振興法による地域の活性化についての御質問でございますが、南房総地域半島振興計画につきましては、市町村の意向を踏まえて千葉県が計画を策定し、昭和62年7月に国の承認を受けたものでございます。したがって、国、県が実施主体となる事業が主に計画されております。

本市にとりましては、東京湾横断道路等のビッグプロジェクトのインパクトを受けとめた地域振興方策である海洋性リゾートタウンの建設を進める上で、県の総合5カ年計画とともに重要な上位計画でございます。すなわち、

本計画にはリゾート整備を中心とした産業振興に加えて、東関東自動車道館山線の建設を初めとした広域幹線道路網、広域的な水源の確保、県立館山運動公園等の都市基盤整備事業、さらには県立南房パラダイスの整備や県立文化ホールの建設などが位置づけられています。これらの事業につきましてはおおむね順調に推移されてきているものと評価しておりますが、継続的な事業や今後計画されている事業に関しましては、南房総地域半島振興協議会等を通じて関係機関へ働きかけを行い、実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

次に、第6点、消費税と都市計画税の廃止についてでございますが、まず消費税につきましては、消費税法が施行されてからおよそ1年半を経過し、幾つかの課題を残しながらも生活の中に定着したとの報道もございますが、御承知のようにさきの通常国会で消費税見直し法案及び消費税廃止法案がともに廃案となり、その決着は与野党の税制問題担当者による税制問題等に関する両院合同協議会の場にゆだねられているところでございます。なお、消費税はおよそその4割が地方に配分されているところでございまして、地方財政の財源強化を含めて、税制全般を見据えた税制改革論議を期待しているところでございます。

いずれにいたしましても、行政は法の厳正な執行という役割を担っており、現在適用されている消費税法の定めに従い課税し、納税するとともに、市といたしましては、消費税法の改正案があった場合は、専決処分等を含めて速やかな対応をすることが肝要であると考えております。

次に、都市計画税についての御質問でございますが、今後ともますます増大する都市計画事業の貴重な財源として活用することが適切なものと考えております。

次に、第7点、市民1人当たりの予算についての御質問でございますが、予算の比較につきましては、補助金の確保に伴う補正等予算編成上の問題もございますので、最も新しいデータとして、平成元年度の決算統計である財政状況調べにより比較してみますと、館山市の1人当たりの歳出総額はおよそ22万 5,000円で、県内28市中14番目となっております。ここでそれぞれの

事情を抱えている他市の状況を取り上げることは必ずしも適当ではございませんが、ちなみに本市より低い市は市川、船橋、木更津、松戸、野田、佐倉、東金、旭、柏、流山、八千代、我孫子、鎌ヶ谷、四街道となっております。また、普通建設事業等投資的経費につきましては10番目となっており、いずれも中ほどより上位にランクされているところでございます。

この問題につきましては、過去山中議員や岩村議員からも同様の御質問がございまして、再三にわたり御答弁を申し上げてきたところでございますが、各自治体の財政規模は、都市と農村、人口や面積、産業構造、災害需要の多少や過疎地を抱えている等々異なる環境条件の中で、各自治体が長期的な視点に立ち、また各年度の財源調達等財政力を踏まえた上で、住民のニーズに合わせ、優先度を選択しながら計画的に事務事業を進めている結果でございますので、ただ単に比較することは適切ではないものと考えております。もとより、地域の発展、振興につながる各年度の予算規模の拡大につきましては、国、県補助金の確保等を含め、常に配慮すべき問題であることは言うまでもございません。

なお、現在館山市は上下水道の整備や海洋性リゾートタウンの形成、館山駅周辺の都市改造事業などの事業を進めており、これら大規模事業の着実な実践のためにも、今お金があるから使い切るということではなく、ますます長期的展望に立った計画的な財政運営が求められているものと確信をいたしております。

次に、第8点、総合病院の新設についてでございますが、この件につきましては、昭和63年4月に策定された千葉県保健医療計画により、増床を伴うものについては不可能というのが県の見解でございます。現在安房医師会で医師会病院の改築の計画があり、医師会病院・保健センター建設委員会を設置し、検討していると伺っております。市といたしましても、2次医療体制の整備を進める上で同病院の果たす役割は大変重要と考えておりますので、計画が具体化し、要請がございましたらばできる限り協力してまいり所存でございます。

次に、第9点、水道の未給水地域の解消についてでございますが、他に対

応策がないかという御質問でございますが、館野、九重地区の未給水地域を初め、館山市水道全体の今後増大する水需要に対応するためには、水道法第7条に基づく事業経営の認可が必要とされております。現在南房総広域水道企業団が設立、広域的水道用水供給の事業化を進めており、この企業団の通水と同時に給水できるよう事業計画を進めているところでございます。今後館野、九重地区につきましては、井戸の水質検査に注意を払いながら、浄水方法について指針をお示ししたいと考えております。

10番、J R 館山駅の横断橋についての御質問でございますが、さきの6月議会で辻田議員に御答弁申し上げましたが、これにつきましては昭和63年度に東日本旅客鉄道株式会社千葉支社に自由通路の概略設計を委託してございます。現在この設計による足場用地につきましてはJ R 千葉支社及び国鉄清算事業団と協議を進めているところでございます。今後の予定につきましては、足場用地の確保、建設に必要な詳細な設計、工事を行い、区画整理事業の完成時に自由通路が供用できるように計画をいたしております。なお、将来橋上駅舎とドッキングできるようにしたいと考えております。

また、館山駅西口エス・シーに対して援助する考えはあるかという御質問でございますが、この会社につきましては8月24日、地元地権者の出資により設立されたと伺っております。市といたしましては、会社の内容、方向等が明確ではありませんが、協力できるものについては協力してまいりたいと考えております。

11番目、東関東自動車道とJ R の複線化についての御質問でございますが、木更津－富津間は平成元年度に基本計画路線に決定され、現在整備計画路線としての決定を受けるべく、環境アセスメントの地元説明会が開催され、調査検討が進められているところでございます。富津以南20.4キロメートルのうち、未着手区間でございました富山富浦道路 7.6キロメートルにつきましても、本年7月に地元説明会が開催され、地域住民の同意のもとに用地測量が実施されておりまして、本年じゅうには用地の取得が開始されると千葉県国道事務所から伺っております。

館山市が会長を務めます東関東自動車道館山線・一般国道 127号富津館山

道路建設促進期成同盟会等の公的機関で43回、さらに会議所を初めといたします民間団体において10回の陳情活動を実施いたしまして、建設、大蔵各大臣を初め地元選出国會議員、関係各省庁へ早期完成をお願いしてまいりました。現在木更津以南の全線におきまして調査及び事業の実施が考えられておりますのもこれら活動の成果であると考えております。

南房総の発展が大きく期待されます完成時期でございますが、東京湾横断道路の完成とあわせて、平成7年度を目標に事業を進めていると建設省から伺っております。

次に、J R内房線複線化についての御質問でございますが、複線化の早期実現を図るため、千葉県J R線複線化等推進期成同盟を結成し、東日本旅客鉄道株式会社等に対しまして積極的に陳情、要望活動を行っているところでございます。

次に、第12点、市道の整備と側溝、排水路についてでございます。まず、市道の舗装についてでございますが、平成2年3月末現在市道の舗装率は92.5%で、幅員4メートル以上の道路については舗装化も終わり、現在は4メートル未満の道路のうち、市民生活に影響の大きな市道から計画的に実施いたしております。

次に、側溝の整備についてでございますが、本来道路に敷設してあります側溝の目的は雨水排水の処理のためでございますが、当市は下水道施設がございませんので、家庭雑排水、浄化槽排水の処理も行えるよう実施しているところでございます。市街地における側溝整備は、検討の結果平成8年度ごろまでに完成すると推測されております。市街地を除く地域の側溝整備につきましては、宅地開発がどの地域にどのように進められるのか不明のため、予想がつかないのが現状でございます。市といたしましては、住環境の整備は急務であり、努力いたしているところでございますが、市民の方も住環境を十分考慮の上、住居等を建築していただきたいものだと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 1つ1つの質問に対しまして丁寧な御答弁ありが

とうございます。非常に参考になる点が多くございましたので、これらの点については十分に吟味をいたしましてこれからの市政の中に生かしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長とは、私が大学を卒業した年に、先輩の柔道家の富沢さんの紹介で県の部長であった川上紀一さんとともに紹介をされまして、市内の料亭で酒を飲ませていただいたことが初めてでございます。そのとき私は、初めて料亭で酒を飲んだ経験の感動とともに、偉い先輩がいるということを今でも覚えているわけでございます。以来35年間この2人を目標に、いつか到達してやろうということでもって今日まで頑張ってきたかと思っているときにこの議会を最後に引退されるということを聞いて、一抹の寂しさとともにむなしさでいっぱいでございます。この間たび重なるところの無礼がありましたことをこの場をお借りいたしまして深くおわびを申し上げたいと思います。

残された2カ月間でございますけれども、以後は市長の責務を離れるわけでございます。先輩として、未熟な私でございますけれども、今後とも末永く御指導、御鞭撻をお願い申し上げまして、質問を終わりたいと思います。

どうも長い間ありがとうございました。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で21番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、2番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2番議員永井龍平君登壇）

◎2番（永井龍平君） 市長さんにおかれましては、一昨日の開会日に引退の表明をされました。4期16年の間市政、市民のために頑張ってこられて、大変御苦労さまでございました。敬意を表します。

さて、私の質問は、半澤市政16年の間、延べ368名だそうでございますが、一般通告質問者があったそうでございます。その16年間の最終の質問になることになりました。この意味で大変記念になる質問でもあると自負し、光栄に思う次第でございます。ありがとうございます。

さて、私は現在地球的規模で問題になっております環境保全の問題についてお伺いをしたいと思います。本年4月22日は地球の日――アースデーであ

りました。この日は、人類の生存と繁栄、そして未来のすべてが託されているこの生命の星地球に思いをはせつつ、今危機に立たされている我が地球を守るために、世界の国々や市民が地球を守るために戦いをさらに前進させる意義深い日でありました。21世紀を眼前に展望するとき、宇宙船地球号は今重大な危機にさらされております。したがって、地球環境の保全は何よりも優先されなければならない世界人類共通の課題になっております。

フロンガスによるオゾン層の破壊は北極、南極のみならず広範な地域で観測され、CO<sub>2</sub>等の温室効果ガスによる地球温暖化現象は世界各地で気温の上昇や異常気象をもたらすなど、その対策はいつきの猶予も許されない状況となっております。また、かねてから警告されてきました酸性雨の問題、地球的規模の森林破壊と砂漠化、そして野生生物種の消失も有効な対策のないまま一層拡大、進行するとともに、海洋においても有害化学物質、油濁、重金属等の廃棄による海洋汚染がさらに深刻化し、多くの貴重な海洋生物の死亡と危機をもたらしております。

こうした状況下に置かれまして、我が国は地球環境保全のために世界を積極的にリードすべき立場にあるにもかかわらず、依然として経済優先主義にとられ、世界各国から非難されております。また、今日日本企業の海外進出が現地において多くの環境破壊を招いていることに対し、世界各国より公害輸出国日本との痛烈な非難を浴びていることも現実でございます。

さて、我が国内に目を向ければ、近年の開発の進行や経済活動の活性化に伴って国土と都市の緑が目に見えて減少するとともに、工場や自動車等による排ガス汚染の拡大、ゴルフ場建設による自然破壊と農薬の問題、さらに生活雑排水による水質汚染の進行あるいは食品汚染の問題など、かつての公害と匹敵する環境汚染と破壊が引き起こされておるのでございます。さらには、アースデーのテーマともなりましたごみ、廃棄物問題については、このまま放置すれば、近い将来ごみを処理する処分場の確保すら困難になるばかりか、重大な環境汚染と資源枯渇をもたらす状況であります。私たちはこれらの状況を前に手をこまねていることはできません。これらの状況をもたらした経済効率中心の生産社会、生活のシステムを1つ1つ考え正していき、緑豊



かな地球、地域の環境を守るために、1人の人間としてこの問題に対して積極的かつ責任ある行動をしていかなければなりません。

さて、これらの環境問題については、当館山市の市民として対岸の火として眺めているわけにもならないことは当然であります。私たちの身の回りを見ましても、環境保全に関しては種々不安な問題が多くございます。果たして館山の海や川はきれいにならないのでしょうか。有害化学物質の含有はどうなのでしょう。農薬等の害はどうなのでしょう。また、先ほど申し上げましたアースデーのテーマになっておりますごみ、廃棄物の問題は私たちにとって一番身近な問題ではないのでしょうか。

このごみの急増問題は各自治体でも大変頭を痛めております。ごみの増量のため、越境処分、不法投棄、ごみ処分場不足等ますます深刻の度を深めております。松戸市ではごみを減らす課を設置、市川市では市職員でごみ問題を考え行動する女性の会をつくり、聞くところによれば、大阪の吹田市ではごみリサイクルセンター等の建設を本年4月に着工したということ聞いております。

さて、今回の私の質問は、これらの最も身近なごみ、廃棄物の処理、減量化、さらに廃棄物の再資源化対策についてお尋ねをいたしたいと存じます。

まず、質問の第1点でございますが、現在ごみの収集業務は円滑に行われておりますかどうかお伺いをいたします。

第2点、分別収集のための分別搬出が守られていないステーションが多く見受けられますが、この対策についてはどのように考えておられますかお伺いをいたします。

第3点、ごみの量が年ごとにふえ、国、各自治体で減量化対策で頭を抱えており、処理能力も近い将来危惧されますが、当市におけるごみ量の実態とその処理能力の見通しはいかがでございますか。

第4点、ごみの再資源化につきましては、現在行っております古紙等の回収をさらに積極的に推進し、ごみの減量化、再資源化を図るべきだと思いますが、お伺いをいたします。

次に、大きな2点目、生命と健康を守る検診対策についてお尋ねをいたし

ます。当市では、ミニ人間ドックとも言われる総合検診を昭和57年から地区別に実施し、昭和62年から現在では館山市全地区でこの検診を実施しております。社会構造の変化、生活の内容の近代化により、疾病の形態は大きく変わりました。私は、市民の健康を守り、疾病の予防、治療の決め手となるこの総合検診をさらに充実させて、一人でも多くの人が検診できるように努力していただきたいと思います。

さて、現在の検診内容は、成人病検診 — これは高血圧、動脈硬化、脳卒中、糖尿病、心臓病等、胸部検診 — 結核、肺がん等、胃部検診 — これは消化器系の病気と胃がん等であり、そのほかに健康保持増進のための保健事業として健康教育や健康相談、家庭訪問による健康についての助言や指導を行っており、市民の検診率も年ごとに増加しており、まことに良好な運営だと私は評価しております。

そこで質問をいたしますが、現在日本では悪性腫瘍で約20万人の人が死亡しておるようでございます。そして、その25%の5万人が胃がんであります。そして、胃がんに次ぐ死亡が大腸がんであります。現在死亡確率が高い死因は男女ともがんであり、次に心臓病、脳卒中と上位を占めております。この死因の第1位のがんのうち、胃の次に死亡率の高い大腸がんの検診は当市では実施しておりません。この検診はぜひやらなければならない、このように思います。ほかの市町村を見ますと、現在富浦町、白浜町はこの大腸がんの検診を実施しております。当市においてもこの大腸がんの検診を実施したらと考えますが、いかがでしょうか、お尋ねをいたします。

次に、学校給食センターの調理従事員の健康管理についてでございますが、過日テレビ等で報道されて御承知かと思いますが、栃木県で1,575名の給食センターの職員を対象に健康調査を実施したところによると、865名が健康の異常を訴え、その内容は腰の異常が438名であり、肩の異常が300名、手や指の異常が202名という調査結果が報道されました。これらはいずれも職業的な要因によるものと思われますが、館山市、富浦町及び三芳村学校給食センターで働く調理従事員の方たちもこれに類似した健康障害があると想定されますが、これらの調理従事員の健康状態についての実態を把握しておら

れますかどうかお伺いをいたします。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 永井議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点目の小さな第1点と第2点目でございますが、ごみの収集業務は円滑に行われているかという御質問でございますが、昭和60年度にごみの効率的な収集処理を図るため、関係職員によりまして収集企画班を設けました。以来、現業職員を中心としました住民へのアンケート調査の実施や収集職員の適正配置、さらには車両、経路等必要に応じて見直しを行い、収集処理体制の充実を図ってまいりました。したがいまして、ごみの収集業務は円滑に行われていると確信いたしておりますが、今後も排出量の動向を踏まえまして効率的なごみ収集に取り組んでまいる所存でございます。

小さな第2点、ごみの分別の不徹底なステーションについての御質問でございますが、従来より広報、カレンダー、チラシ等により周知徹底を図っておりますが、御指摘のように一部のステーションにつきましては分別の悪い箇所も見受けられます。一部の心ない人たちのマナーの欠如によりまして、衛生面や美観上にも問題がありますので、今後関係町内会長と連絡をとり合い、個別指導や町内集会等の機会をとらえ、分別の徹底を図ってまいる所存でございます。

次に、小さな第3点、ごみの増量が問題になっているが、当市においてごみ量の実態とその処理能力の見通しについて、こういう御質問でございますが、まず最初にごみ量の実態についてでございますが、昭和60年4月に現在の清掃センターが稼働して以来、平成元年までの5カ年間の年平均可燃ごみの増加率は6.2%でございます。平成元年度の可燃ごみの処理量は2万681トン、清掃センターの稼働日平均に直しますと1日当たり69.6トンとなります。平成2年4月から新たに古紙の回収を実施した結果、可燃ごみの8月までの対前年度比の増加率が0.6%になっており、年間を通して3%以内に

おさまる見込みでございます。

次に、将来の処理能力の見通しについてでございますが、古紙、段ボール等の回収をさらに進め、可燃ごみの減量化を図ってまいりたいと考えております。このため、今後年3%ずつのごみ量の増加を見込みましても、清掃センターの耐用年数を別とすれば、今後10年間は現有の施設で対処できると考えております。

次に、小さな第4点、ごみの再資源化について積極的な推進をという御質問でございますが、ごみの減量化、再資源化につきましては、本年4月より新聞、雑誌の収集を市街地については月1回、市街地以外の地区につきましては春の市内一斉清掃日に実施してまいりました。市民にも非常に好評でありますので、本年9月から館山、北条地区については月2回、その他の地区については月1回収集し、また一般家庭、事業所よりごみとして排出されております段ボールにつきましても資源回収業者等の協力を得て回収を図ってまいります。また、金属類、ガラス類につきましては従来より再資源化を図っております。平成元年度では金属類は1,930トン処理し、46%の888トンが、ガラス類は1,096トン処理し、83%の910トンがそれぞれ再資源化されております。今後も引き続きごみの減量化、再資源化に努めてまいる所存でございます。

次に、大きな第2点、生命と健康を守る検診対策についての小さな第1点、大腸がん検診の実施についての御質問でございますが、大腸がんにつきましては、御指摘のとおり生活様式の変化、特に食生活の欧米化が進む中で年々増加の傾向を示しております。市といたしましても、市民の皆さんの望ましい健康管理という観点から大腸がん検診は必要との認識に立ち、検査を依頼する安房医師会の受け入れ態勢につきまして、新年度からの一部地域での実施の可能性を協議しているところでございます。

次に、学校給食センターの調理員の健康管理につきましては教育長から御答弁申し上げます。

答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) お答えいたします。

大きな第2点の小さな第2点でございますが、館山市、富浦町及び三芳村学校給食センターの調理従事員の健康状況についての調査でございますが、調理員27名のうち、4名指に異常のある者があるというような報告を受けております。給食センターでは、今後労働安全衛生規則で定められた健康診断、検便等を実施し、調理員の健康管理には十分に努めたい、このように考えておるわけでございます。

終わります。

◎議長(渡辺昭夫君) 永井龍平君。

◎2番(永井龍平君) まず、大きなごみ問題の1点目でございますが、私の家から県道に出ますと、館山白浜線——いわゆる館山病院前の道路でございますが、この県道のごみステーションのごみの収集が1年くらい前までは朝9時ごろ乃至9時半ごろまでには収集が行われておりましたけれども、現在3時過ぎの収集になっております。県道にごみの山が遅くまでであるということは、近隣住民の衛生上、また他県からの観光客——県道でございますから、白浜等に向かう観光客等に対して、いわゆる観光都市館山市の景観と申しましょうか、アメニティを損なう印象を与えますので、収集時間を守ってほしいとの訴えがございました。この点について善処していただきたいと思いますが、この点いかがでございましょうか。

◎議長(渡辺昭夫君) 民生部長。

◎民生部長(佐藤澄雄君) ごみステーションの収集経路についての問題でございますけれども、ただいまの市長答弁にもございましたけれども、ごみの収集業務につきましては、現場職員等で作っております収集企画班の中で必要に応じまして経路等の検討をしているわけでございます。いかに効率よく早く確実に収集するかということで現場職員それぞれ努力をしているわけでございますが、御質問にありました県道館山白浜線は主要幹線道路の1つでございますので、それを念頭に置きながら、他の地区との整合を図る、こういう面も考えながら今後検討してまいりたいというふうに考えておりま

す。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） ひとつ早く確実に――重なりますが、速やかにそのように対処していただきたい、このように思います。

これは私の判断でございますけれども、現在の収集車、また収集作業員不足が原因でこのようなことになっているんじゃないかと私は思っておるわけでございますが、現在の収集管理センターと環境施設センターの体制と業務の概要を簡単に結構でございますから御説明をお願いいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 収集と管理の両センターの業務と体制の問題でございますけれども、まず収集管理センターでございますけれども、ここには場長1名、それからごみ収集業務に21名、それから側溝清掃に5名、合計で27名おるわけでございます。収集車両といたしましては、2トンのパッキマスターが10台、側溝清掃車が2台、2トンダンプカーが3台でございます。

環境施設センターの業務についてでございますけれども、一般廃棄物の処理を行うので、可燃ごみを焼却する清掃センター、生し尿、浄化槽汚泥の処理を行う衛生センター、それと清掃センターから出る焼却灰等を埋め立て処分する最終処分場、このほかに安房郡市の広域市町村圏事務組合から管理運営を委託されている粗大ごみ処理施設、この4施設の維持管理を行っております。職員数は26名で、清掃センターは交代制で勤務いたしております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） はい、わかりました。

次に、小さな2点目でございますが、まずこのごみステーションの数は当市にはどのくらいございますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ごみステーションの数でございますが、現在1,380カ所でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 随分多くあるわけですね。このごみの分別また搬出

の問題は、御答弁のようにマナーとモラルを守っていただくのが最良の方策だ、決め手だ、このように思いますが、先ごろNHKのラジオ第1放送で、特別番組でごみの環境保全、ごみの問題で3夜連続で討論ですか、これがございました。ちょっと聞く機会がありましたので……。その中でニューヨーク在住の日本人の婦人との電話での話の中で、ニューヨークでは朝6時半の搬出時間になっておりまして、たまたまその婦人は6時ごろごみをビニール袋に入れて出してしまったところ、収集車が来る前に野良犬か何かにビニール袋を破られましてごみが散乱してしまった。そこへ——リサイクルパトロールマンとか言っておりましたけれども、そこで罰則金5ドルを取られたといわゆる話しておりました。このようにこのごみの問題について厳しい罰則規定をしている国、ところもございます。

そこで、私の提案でございますけれども、現在ステーションに設置しておりますあの表示板がございますが、この表示板の見直しを考えたと思うのでありますが、現在の表示板は搬出場所の表示と燃えるごみ、燃えないごみの搬出日と搬出時間、そして中央に標語として「いつもきれいに正しい分別」と書かれて——表示板ですけれども、ごみは汚い、そして不衛生だ、暗いイメージを受けるわけでございますので、この表示板をカラフルでイラストレーション的なものにして、このごみに対して親しめる——ごみに親しむというのはちょっとおかしいんですが、ごみにもっと気を配ろうとの意識を啓発するような掲示板にする見直しをしたらどうかなと思いますが、この点はいかがでございましょうか。

また、小学生、中学生等に標語、ポスター等を書いていただいて、人の集まるところに張り出しましてごみ問題に対する意識の高揚を図ったらどうかと思いますが、いかがでございましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ごみの表示板の見直しの御提案でございますけれども、確かに現在のところは事務的になっておりますが、今後研究課題として取り組んでまいりたいと思います。

また、小中学生によります標語、ポスターにつきましては、現在北条小、

西岬小などで環境美化ポスターをつくっておりますが、今後クリーン・アンド・ビューティフル運動というような中で検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） ぜひ検討して、ごみに対しての意識を図っていくようにお願いしたいと要望いたします。

現在産業は、先ほど申しましたが、石油を材料にしまして新しい物質を次々とつくっております。その製品としては、典型的な物質にプラスチックがございますが、このプラスチックは生活を便利にした反面、処理の困難なごみを大量に発生させました。この人造物質は今までに地球上に存在しなかった物質であり、そのために生物の分解ができずに、そのため埋めても腐らない——せんだってなんか「しんかい6500」が6,500メートル以上潜ったところにビニールの袋がふわふわ浮いていた、このようなこともございましたけれども、また塩化ビニールのように焼却すると有害な塩化水素を発生してとても厄介なごみとなっております。この商品の代表的なものとしては、トレパック、ペットボトル等が今はらんしてしております。これらの有害で使い捨てで、しかも処理に困るこれらの製品の増量が見受けられますが、このトレパック、ペットボトル等のプラスチックごみは大変処理上問題があると思われまので、この点についてはどのように考えておりますか。また、過剰包装問題について非常に問題になっておりますが、この点についてもいかがお考えでありますか、お尋ねをいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） トレパック、ペットボトル等のプラスチック類の処理についてでございますが、このような使い捨てと申しますか、ワンウェイの製品の処理は御指摘のように大変当市でも苦慮しておるところであるわけでございます。しかしながら、これらの処理は一自治体ではその対応が非常に難しい面もあるわけでございます。今国レベルで廃棄物処理の一本化、システム化を図るということで、法改正の動きもあるようでございますので、それらの動向を踏まえながら対応してまいりたいというふうに考えて



おります。

また、過剰包装紙の問題につきましては、先般商店会連合会にもお願いして協力依頼をいたしました。今後も引き続いて連帯をとりながら進めてまいりたい、このように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 専門家に言わせますと、各地——いわゆる下の盛り上がりと申しますか、地方自治体からこういった問題をやっていかなければとても国がなかなか動かないというようなことも話しておりましたが、そのような方向でやっていっていただきたいと思います。

次に、小さな3点でございますが、伺いますけれども、昭和60年4月に現在の清掃センターが建設されて稼働しておるわけでございますが、平成元年度までの5年間の可燃ごみの増加率が年平均6.2%で、平成元年度の処理量としましては2万681トンとの説明でございますが、昭和60年4月から平成元年度までの可燃、不燃ごみの合計の増加量はどのくらいになりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 可燃、不燃ごみの合計の増加量はどれくらいかということでございますけれども、可燃ごみと不燃ごみの全処理量は昭和60年度で1万7,683トン、61年度1万9,426トン、前年比で9.9%の増、1,743トンでございます。それから、昭和62年度、これが2万572トン、対前年比5.9%の増、1,146トンの増です。昭和63年度2万1,718トン、対前年比5.6%の増で1,146トンの増、平成元年度2万3,324トン、対前年比7.4%の増、1,606トンの増でございます。5年間で可燃ごみは4,428トン、不燃ごみは1,213トン、合計5,641トンの増、1.32倍の増量ということになっております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） わかりました。1.32倍、5,641トンの増量、増加だということでございますが、現在日本では好景気に恵まれまして、各企業では労働者不足で大変悩んでおります。この人手不足で倒産する会社も多くあって非常な問題になっておりますが、ただいまの説明によりますと、5年間

で可燃ごみ、不燃ごみの合計が 5,641トンもふえている。1.32倍になっている。にもかかわらず、その労働力は清掃センターができた5年前の60年の4月の体制と何ら変わりはないわけです。人もふやしていないし車もふやしていない。もう同じ体制でこの5年間ふえているにもかかわらずやってきておる。その労働力は — 私の考えですが、大変な過重な労働があったんではないかな、このように思うわけでございます。しかし、幸いにも本年4月から業者による古紙等の回収が実施されまして、段ボール等の回収も進められます。可燃ごみに限って今まで 6.2%の増量がこれからは年3%以内におさまってくる、減少してくるとの説明でありますので、大変これは結構なことだと思います。これからもぜひ強力に減量、資源化を進めていっていただきたい、このように思います。

次に進みますが、第4点 — 小さな4点でございますが、ごみの減量化、再資源化についてでございますが、減量化につきましては先ほどの説明で理解をいたしました。再資源化についてでございます。6月議会において横溝先生が質問しておられますが、前段で申し述べましたが、現在地球規模で環境保全の問題、自然破壊の問題が先ほど厳しく取り上げられておりますので質問いたしますが、当市では先ほどの説明で、金属類 1,930トンの処理、46%の 888トン再資源化されて、またガラス類は 1,096トンの処理で83%、910トンの再資源化をしておるようでございます。これ元年度ですか。

私はここで埼玉県の再資源化方式をちょっと紹介してみたいと思うんですが、この川口方式では、市民がごみを分けて出せば — 分別方式ですね。出すほど市民にお金が返ってくるということで目に見える形になって、川口市ではごみで還元金が返るという方法を行っておるようでございます。川口方式を実施してから10年経過しておりますが、現在還元金がどのくらいになっておるかという、1年間に 8,900万円のお金が川口市内の町内会へ還元されております。そして、4億 2,423万円というお金が税金にして節約されておるようでございますが、これを10年間のデータで見ますと、市役所の助成金を含まない売却代金、瓶と缶と紙を分けて出すのが川口方式であります、この3つを市民がきちんと分けて出して売ったお金が何と5億 8,586万円に

もなった。そして、この還元金で町内会館が市内に11個も建設されたそうでございます。また、市のごみの処理がどれだけ節約できたかという、24億3,000万円になったということであります。このごみの売却による還元方式は、ごみの分別も徹底され、何よりも市民がごみを再生——生かすという意識が高いことを示していると思います。

そこでお尋ねをいたしますが、当市においてもこのような方式を考えたら、このように思いますけれども、この点いかがでございましょうか、お尋ねをいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいま御紹介いただきました埼玉県川口方式、今後勉強させていただきたいと思います。

再資源化の方法というのは、その土地の形態とか人口とか、そういうものに応じていろいろあるかと思います。当市は現在市民の大変な積極的な協力をいただいております、金属類とガラス類、それから古紙類と3分別収集を行っているわけでございます。館山市ではこの方法をより徹底することでさらに再資源化を図ってまいりたいというふうには考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） その自治体の内容とかいろんな問題がありますので、当市にどうかとも思いますけれども、研究をなさってまたさらに分別の徹底を図っていただきたい、このように思います。

次に、ごみの再利用で一番効果的なものとしてデポジット制度というものがあります。御承知のように、このデポジット制度——デポジットを正しく言いますと、デポジットリファンドシステム、預かり金払い戻し制度であります。現在では小売店ではビール瓶が5円、ジュース、コーラの瓶が10円で預かって、買い手側がその瓶を返しに行けばその預かり金を戻す、こういうシステムでございしますが、この制度はスカンジナビア地方で、特にスウェーデン、デンマーク等は徹底したデポジット制度であるようでございます。これはごみの再利用として最高に効果的で、ごみの処理の専門家も指摘しております。これは私はこのデポジット制度を関係するところへの導入について

いかかな、このように思いますけれども、いかがでございましょうか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまのデポジット制度の導入についてでございますけれども、本年の6月に衆議院の環境委員会に空き缶、空き瓶等の回収に関する法律案——いわゆるデポジット法案と言われておりますが、これが提出されております。継続審議にはなっておるわけでございますが、今後その動向を見守りたいというふうに考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

これからの地球環境保全の——先ほどから何遍も言っても大変くどいようですが、問題は地球人として、また我々一市民、一人間として考えを改めて正していかなきゃいけない。いわゆる温暖化、酸性雨、熱帯雨林の消滅、あふれる廃棄物、この危機に立つ地球環境を守るためにここで提案をしたいんですが、私たちはもちろんであります、未来を担う小中学校生、中学生に、このごみに関する問題を学校教育に取り入れることも大切かと思っておりますけれども、これをひとつお願いしたいなと思っております、お尋ねをいたします。

それと、大腸がんの問題につきましては、いわゆる来年度から一部地域実施なさるようでございますので、徐々に運営を良化していただきたい、このように思います。

学校給食センターの問題でございますが、これはわかりました。また組合議会等で取り上げてみたい、このように思います。

以上で質問を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 教育委員会の方と協議してございますので、私が回答いたします。

御指摘のとおり、未来を担う青少年に身近なごみの問題から地球環境保全の問題まで幅広い関心を持ってもらうということは大変重要なことでございます。今後教育委員会とも十分連携をとりながら対応してまいりたいと考え

ております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で2番議員永井龍平君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時25分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明13日から16日まで議案調査のため休会、次会は9月17日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。平成元年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは9月17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問